

提 言 書

善通寺市に相応しい小・中学校の校数・幼稚園数について

令和6年3月25日

善通寺市学校等の在り方検討委員会

目 次

はじめに	1
I. 善通寺市の小・中学校、幼稚園の現状と将来推計	3
市内保育所・幼稚園・小中学校 平成 21 年度以降の子どもの数の推移	
市内各幼稚園・各小中学校の子どもの数	
令和 5 年度 市内校区ごとの 0 歳児～5 歳児数	
市内校区ごとの幼稚園入園児数と入園率	
市内幼稚園 園児数の推移と予測	
市立小学校 児童数の推移と予測	
令和 5 年度から令和 10 年度までの児童・学級数の推移（見込み）	
学校校舎建築年	
II. 善通寺市に相応しい中学校の校数について	7
III. 善通寺市に相応しい小学校の校数について	9
IV. 善通寺市に相応しい幼稚園の園数について	11
おわりに	14

はじめに

現在の少子高齢化、人口減少の波は、本市においても例外ではなく、市内の子どもの数は減少してきている。

また、予測を超えた加速度的な社会の変化や、保護者の価値観やライフスタイルの多様化等により、家庭や地域社会と学校や幼稚園とのかかわり方は大きく変わってきている。

このような中、平成30年12月に「善通寺市教育課題検討委員会」を立ち上げ、市内の幼稚園・小学校のあるべき姿、適正規模・適正配置について検討を行い、途中、新型コロナウイルス感染症拡大による中断も挟んだが、令和4年5月に意見が報告された。

そこでは、これからの幼稚園・小学校のあり方について、様々な提言がなされたが、施設の老朽化の問題などから、学校再編については喫緊の課題である。そこで、今度は中学校も含めて、善通寺市に相応しい校数・園数について考える本委員会を立ち上げ、引き続き検討を進めていくこととなった。

本市には、中央、東部、西部、南部、竜川、与北、筆岡、吉原の自治会を中心とした8つの地区があり、それぞれの地区に市立小学校と市立幼稚園、市立公民館があり、特に小学校は各地区のシンボリックな施設として認識されている。

今回、将来に向けて本市に相応しい校数・園数を検討するにあたっては、そのような地域性は一旦置いておき、本市に新しい学校を作るとしたら何校がいいのか、という視点で考えることを前提に検討を進めることとした。

それに先立ち、本委員会では、市内の小・中学校、幼稚園を視察し、現状把握を行い、検討については、中学校、小学校、幼稚園の順番で行った。

会議における議論は、1校・園あたりの規模（児童・生徒数、学級数）に関することが中心となったが、様々な要因を考慮し、将来を見据え、本市に相応しいと考えられる校数・園数について検討を重ねてきた。その結果を、ここに提言として報告する。

思考過程において、重要な事項について、ここにあらためて記載しておきたい。

「アスリートファースト」という言葉がある。「選手第一」という意味合いであり、東京オリンピック/パラリンピックにおいて、盛んにメディアが取り上げていた。考え方として、アスリートが上に、頂点に位置して、関係者がみこしの担ぎ手の様に持ち上げている様相、のようなカタチである。当然のごとく、東京オリンピック/パラリ

ンピックは、選手不在では成立せず、選手のための大会とすることも可能である。本当にそれだけでよいのか？という疑問から、最近よく耳にする言葉が、「アスリートセンタード」である。この考え方は、アスリートは頂点に位置するのではなく、中央に位置しており、そのアスリートを取り囲むように、全員で連携しながらともに、全体として向上を目指す、というものである。つまり簡略化すると、「選手第一」思考から「選手中央」思考への転換である。

今回、委員会に与えられた命題に対して、提言を模索する段階において、上記の思考過程を踏襲している。つまり、「選手」を、将来の善通寺市を担う「子どもたち」に置き換えることである。善通寺市の教育環境を整えることは、子どもたち第一主義ではなく、子どもたちを中央に据えて、市民全員で連携しながら、市として向上を目指していくことである。

また、将来的に「こうあってほしい」「こうあるべきである」という理想は、すべての市民が抱き、それに向けて前進していくべきである。しかしながら、重要な課題を議論する上で必要なことは、客観的な思考、根拠あるデータ、そして冷静な判断である。本委員会においては、議論のための基礎データとして、善通寺市の人口推移、文部科学省管轄のデータ、過去の事例を用いている。

委員会において、議論を進め、多くの意見交換を重ねるにつれて、地域の幼稚園、小学校、中学校は、単純に「学校」という教育の機関を越えた存在であることを確信した。だからこそ、各委員は、真摯な態度で会議に臨み、真剣に思考し、議論を重ねてきた。

本市の将来を支える子ども達にとって望ましい教育環境を整え、より充実した教育を実現するための指針となることを期待するところである。

I. 善通寺市の小・中学校、幼稚園の現状と将来推計

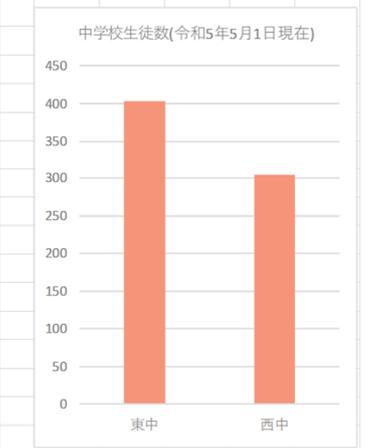
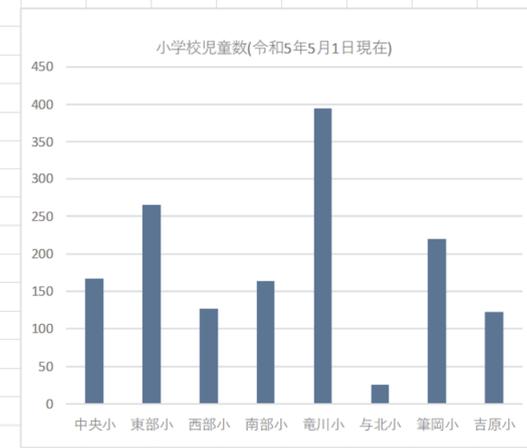
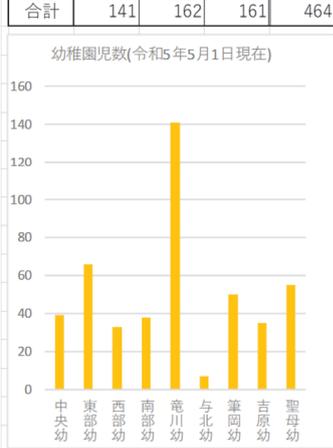
市内保育所・幼稚園・小中学校 平成21年度以降の子どもの数の推移 (全国で3歳児クラスが出来た平成21年度以降の推移)



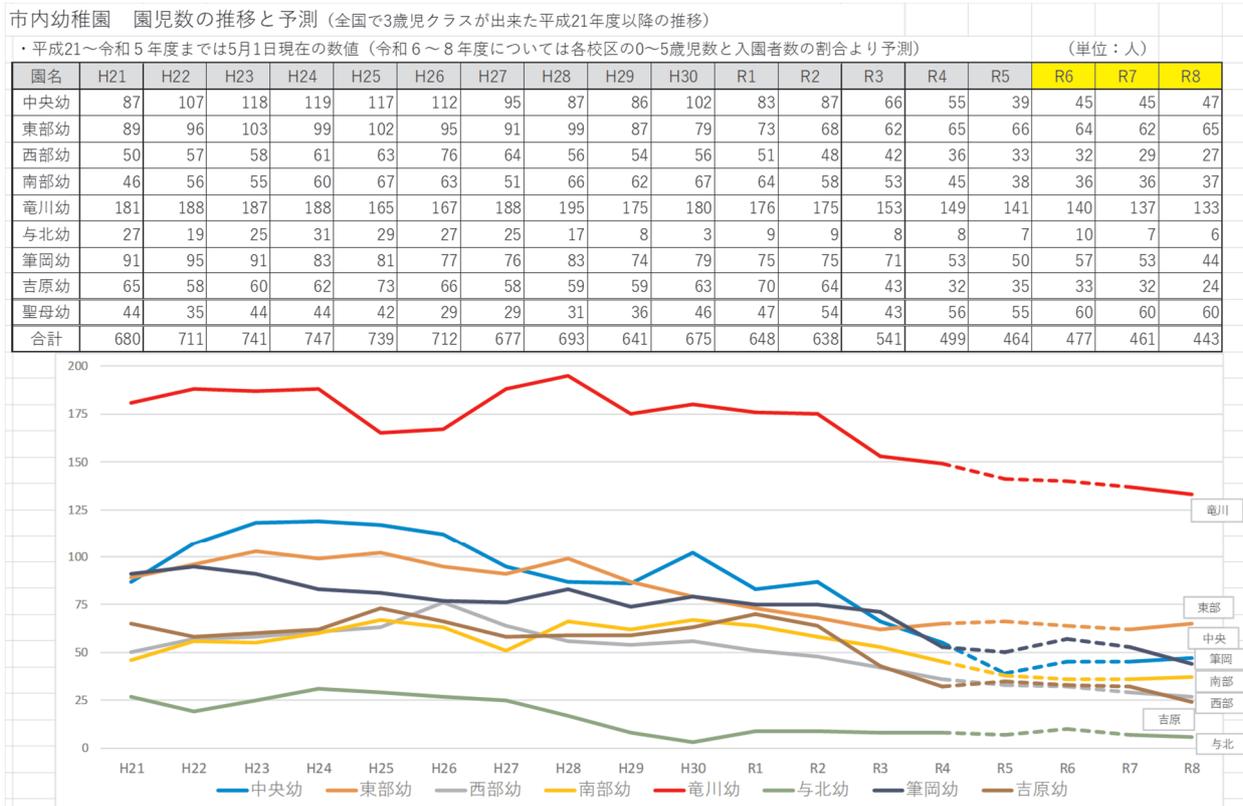
市内各幼稚園・各小中学校の子どもの数

・令和5年5月1日現在の数値

○幼稚園 (単位：人)					○小学校 (単位：人)								○中学校 (単位：人)				
学年 園名	年少	年中	年長	合計	学年 校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学年 校名	1年	2年	3年	合計
中央幼	6	17	16	39	中央小	32	31	26	24	19	35	167	東中	137	133	133	403
東部幼	21	22	23	66	東部小	42	43	48	37	43	52	265	西中	100	102	102	304
西部幼	11	10	12	33	西部小	25	19	22	19	21	21	127	合計	237	235	235	707
南部幼	9	14	15	38	南部小	27	26	25	27	37	22	164					
竜川幼	45	48	48	141	竜川小	73	61	68	63	60	70	395					
与北幼	1	3	3	7	与北小	3	3	5	3	5	7	26					
筆岡幼	17	12	21	50	筆岡小	32	44	43	34	42	25	220					
吉原幼	11	13	11	35	吉原小	10	25	25	20	17	26	123					
聖母幼	20	23	12	55	合計	244	252	262	227	244	258	1,487					
合計	141	162	161	464													



令和5年度 市内校区ごとの0歳児～5歳児数							市内校区ごとの幼稚園入園児数と入園率					
・令和5年4月1日現在 (単位:人)							・各年5月1日現在の数値 (単位:人・%)					
年齢 校区	0歳児 R4.4.2～ R5.4.1生	1歳児 R3.4.2～ R4.4.1生	2歳児 R2.4.2～ R3.4.1生	3歳児 H31.4.2～ R2.4.1生	4歳児 H30.4.2～ H31.4.1生	5歳児 H29.4.2～ H30.4.1生	年度 校区	R3	R4	R5	平均 入園率	
中央	25	33	25	22	33	24	中央	66 (105)	55 (99)	39 (79)	49.4%	56.5%
東部	49	45	42	43	49	44	東部	62 (132)	65 (137)	66 (136)	47.0%	47.7%
西部	16	15	15	20	20	17	西部	42 (68)	36 (64)	33 (57)	61.8%	58.7%
南部	21	18	14	19	18	20	南部	53 (73)	45 (65)	38 (57)	72.6%	69.7%
竜川	56	51	58	61	55	57	竜川	153 (197)	149 (181)	141 (173)	77.7%	80.4%
与北	4	2	6	7	7	5	与北	8 (15)	8 (14)	7 (19)	53.3%	47.9%
筆岡	18	26	37	35	33	36	筆岡	71 (115)	53 (102)	50 (104)	61.7%	54.2%
吉原	6	12	11	15	14	14	吉原	43 (50)	32 (39)	35 (43)	86.0%	83.3%
合計	195	202	208	222	229	217	合計	498 (755)	443 (701)	409 (668)	66.0%	63.5%
令和5年度幼稚園入園対象者							上段:各校区入園児数・人					入園率・%
令和6年度幼稚園入園対象者							下段:(各校区3歳～5歳児数)・人					
令和7年度幼稚園入園対象者												
令和8年度幼稚園入園対象者												

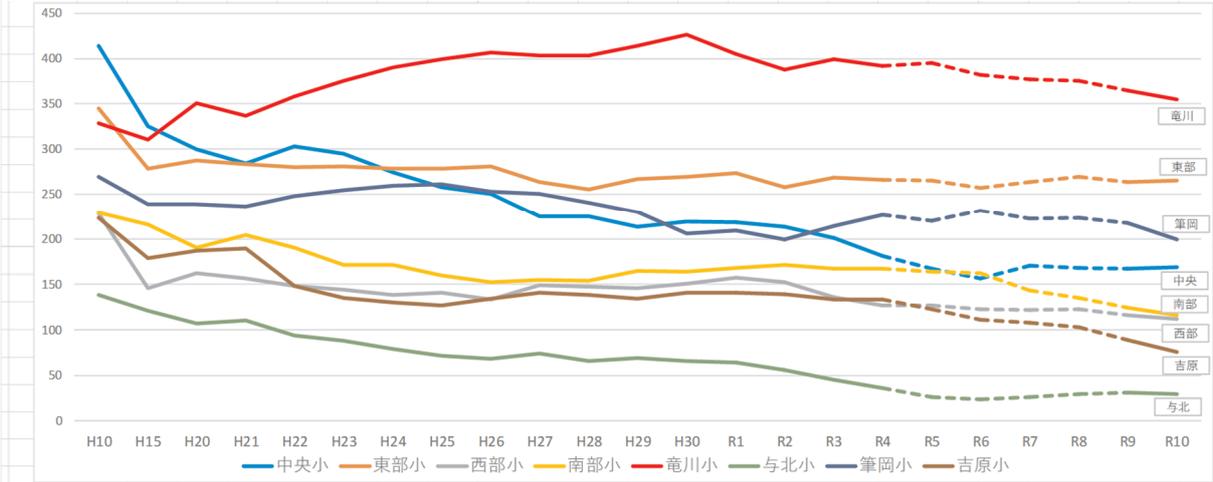


市立小学校 児童数の推移と予測

・令和5年度までは5月1日現在の数値（令和6～10年度については各校区の園児数と0～5歳児数より予測）

（単位：人）

学校名	H10	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
中央小	414	325	300	284	303	295	274	258	250	225	225	213	219	218	213	201	181	167	156	170	168	167	169
東部小	345	278	287	283	280	281	278	278	281	263	255	267	269	273	258	268	266	265	257	263	269	263	265
西部小	228	146	162	156	148	144	138	141	133	149	147	146	151	157	152	136	127	127	123	122	123	116	112
南部小	229	216	190	204	190	171	171	160	152	155	154	165	164	168	171	167	164	162	143	135	124	116	116
竜川小	328	310	351	337	358	375	390	399	407	403	403	414	426	405	388	399	392	395	382	377	375	365	355
与北小	138	121	107	110	94	88	79	72	68	74	66	69	66	64	56	45	36	26	24	26	30	31	30
筆岡小	269	239	239	236	248	254	259	261	253	250	240	230	206	209	199	214	226	220	231	222	223	217	199
吉原小	223	179	187	189	148	135	130	127	134	141	138	134	141	141	139	133	133	123	111	108	103	89	76
合計	2,174	1,814	1,823	1,799	1,769	1,743	1,719	1,696	1,678	1,660	1,628	1,638	1,642	1,635	1,576	1,563	1,528	1,487	1,446	1,431	1,426	1,372	1,322



令和5年度から令和10年度までの児童・学級数の推移（見込み）

	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		
	人数	学級数	人数	学級数									
中央	1年生	32	1	24	1	33	1	22	1	25	1	33	1
	2年生	31	1	32	1	24	1	33	1	22	1	25	1
	3年生	26	1	31	1	32	1	24	1	33	1	22	1
	4年生	24	1	26	1	31	1	32	1	24	1	33	1
	5年生	19	1	24	1	26	1	31	1	32	1	24	1
	6年生	35	2	19	1	24	1	26	1	31	1	32	1
	合計	167	7	156	6	170	6	168	6	167	6	169	6
特支	内5	3											
東部	1年生	42	2	44	2	49	2	43	2	42	2	45	2
	2年生	43	2	42	2	44	2	49	2	43	2	42	2
	3年生	48	2	43	2	42	2	44	2	49	2	43	2
	4年生	37	2	48	2	43	2	42	2	44	2	49	2
	5年生	43	2	37	2	48	2	43	2	42	2	44	2
	6年生	52	2	43	2	37	2	48	2	43	2	42	2
	合計	265	12	257	12	263	12	269	12	263	12	265	12
特支	内6	3											
西部	1年生	25	1	17	1	20	1	20	1	15	1	15	1
	2年生	19	1	25	1	17	1	20	1	20	1	15	1
	3年生	22	1	19	1	25	1	17	1	20	1	20	1
	4年生	19	1	22	1	19	1	25	1	17	1	20	1
	5年生	21	1	19	1	22	1	19	1	25	1	17	1
	6年生	21	1	21	1	19	1	22	1	19	1	25	1
	合計	127	6	123	6	122	6	123	6	116	6	112	6
特支	内5	2											
南部	1年生	27	1	20	1	18	1	19	1	14	1	18	1
	2年生	26	1	27	1	20	1	18	1	19	1	14	1
	3年生	25	1	26	1	27	1	20	1	18	1	19	1
	4年生	27	1	25	1	26	1	27	1	20	1	18	1
	5年生	37	2	27	2	25	1	26	1	27	1	20	1
	6年生	22	1	37	1	27	2	25	1	26	1	27	1
	合計	164	7	162	7	143	7	135	6	124	6	116	6
特支	内4	3											
竜川	1年生	73	3	57	2	55	2	61	2	58	2	51	2
	2年生	61	2	73	3	57	2	55	2	61	2	58	2
	3年生	68	2	61	2	73	3	57	2	55	2	61	2
	4年生	63	2	68	2	61	2	73	3	57	2	55	2
	5年生	60	2	63	2	68	2	61	2	73	3	57	2
	6年生	70	2	60	2	63	2	68	2	61	2	73	3
	合計	395	13	382	13	377	13	375	13	365	13	355	13
特支	内17	4											
与北	1年生	3	1	5	1	7	1	7	1	6	1	2	1
	2年生	3	1	3	1	5	1	7	1	7	1	6	1
	3年生	5	1	3	1	3	1	5	1	7	1	7	1
	4年生	3	1	5	1	3	1	3	1	5	1	7	1
	5年生	5	1	3	1	5	1	3	1	3	1	5	1
	6年生	7	1	5	1	3	1	5	1	3	1	3	1
	合計	26	6	24	6	26	6	30	6	31	6	30	6
特支	内2	2											
筆岡	1年生	32	1	36	2	33	1	35	1	37	2	26	1
	2年生	44	2	32	1	36	2	33	1	35	1	37	2
	3年生	43	2	44	2	32	1	36	2	33	1	35	1
	4年生	34	1	43	2	44	2	32	1	36	2	33	1
	5年生	42	2	34	1	43	2	44	2	32	1	36	2
	6年生	25	1	42	2	34	1	43	2	44	2	32	1
	合計	220	9	231	10	222	9	223	9	217	9	199	8
特支	内5	3											
吉原	1年生	10	1	14	1	14	1	15	1	11	1	12	1
	2年生	25	1	10	1	14	1	14	1	15	1	11	1
	3年生	25	1	25	1	10	1	14	1	14	1	15	1
	4年生	20	1	25	1	25	1	10	1	14	1	14	1
	5年生	17	1	20	1	25	1	25	1	10	1	14	1
	6年生	26	1	17	1	20	1	25	1	25	1	10	1
	合計	123	6	111	6	108	6	103	6	89	6	76	6
特支	内3	2											

学校校舎建築年				
学校名	種類	延床面積	建築年	
			和暦	西暦
中央小学校	教室棟	1,011㎡	S53	1978
	特別教室棟	269㎡	S53	1978
	特別教室棟	1,392㎡	S43	1968
	管理教室棟	1,322㎡	S45	1970
東部小学校	教室棟	920㎡	S47	1972
	教室棟	502㎡	S51	1976
	教室棟	20㎡	S58	1983
	管理・特別教室棟	1,475㎡	S58	1983
西部小学校	教室棟	789㎡	S54	1979
	管理教室棟	642㎡	S45	1970
	管理教室棟	360㎡	S54	1979
	教室棟	1,215㎡	H6	1994
南部小学校	教室棟	793㎡	S46	1971
	管理教室棟	1,135㎡	S49	1974
	特別教室棟	135㎡	S54	1979
	特別教室棟	810㎡	S54	1979
竜川小学校	管理教室棟	734㎡	S53	1978
	普通教室棟	1,186㎡	S53	1978
	普通教室棟	710㎡	S53	1978
	普通教室棟	471㎡	H23	2011
与北小学校	管理教室棟	1,801㎡	S52	1977
筆岡小学校	管理棟	1,146㎡	S48	1973
	教室棟	1,598㎡	S55	1980
吉原小学校	校舎棟	2,238㎡	S50	1975
	校舎棟	551㎡	S54	1979
東中学校	特別教室棟	698㎡	S54	1979
	特別教室棟	815㎡	S61	1986
	教室棟	3,747㎡	H20	2008
西中学校	校舎棟	1,272㎡	S51	1976
	校舎棟	981㎡	S60	1985
	校舎棟	1,580㎡	H26	2014
中央幼稚園	管理教室棟	802㎡	S52	1977
東部幼稚園	管理教室棟	1,144㎡	S56	1981
西部幼稚園	管理教室棟	670㎡	S57	1982
南部幼稚園	管理教室棟	737㎡	S54	1979
竜川幼稚園	管理教室棟	788㎡	S58	1983
	教室棟	68㎡	H22	2010
与北幼稚園	管理教室棟	638㎡	S54	1979
筆岡幼稚園	管理教室棟	656㎡	S53	1978
吉原幼稚園	管理教室棟	790㎡	S58	1983

※ 検討委員会で示した資料（令和4年度時点）を令和5年度に追加・修正したものの。

II. 善通寺市に相応しい中学校の校数について

提言

中学校については、1校とするのが望ましい

現在、市内には東中学校、西中学校の2校があるが、両校とも市の中心部にあり、その距離が近いこと、市の中心部に1校とするのであれば、通学も現在と大きく変わらず支障がない。

2校あれば、切磋琢磨できるという面もあるが、部活動については、現在、両中学校が合同練習を行っており、令和6年度の総体後の新チームからは合同チームとなる予定である。そういったことから、1校になることは受け入れられやすいと思われる。切磋琢磨については、学年の生徒数、クラス数が増えれば可能であると考えられる。

また、中学校の校数を考えるにあたり、義務教育学校※についても議論を行ったが、市内に義務教育学校1校だけというのは、小学校の児童数を考えると難しい。また、義務教育学校と通常の中学校の2校が存在するとなると、よほどの特色がないと、9年間一緒になる義務教育学校を選択する児童は少ないのではないかと懸念される。これらのことから、本市において、義務教育学校の設置は難しいと考える。

※ 義務教育学校とは、一つの学校として、一人の校長、一つの教委職員組織のもと、義務教育期間の9年間の修業（前期：6年、後期：3年）を行う学校。独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す小中一貫校とは別のものになる。

(参考)

現在の生徒数（令和5年度）

（単位：人）

	学年	1年	2年	3年	合計
東中学校	生徒数	137	133	133	403
	学級数	4	4	4	12
西中学校	生徒数	100	102	102	304
	学級数	3	3	3	9
1校の場合	生徒数	237	235	235	707
	学級数	7	7	7	21

生徒数、学級数の試算（令和11年度）

（単位：人）

	学年	1年	2年	3年	合計
市内該当年齢の人数		218	246	257	721
1校の場合	生徒数	196	221	231	648
	学級数	6	7	7	20

- (注) 1. 令和5年4月1日現在の6～8歳の児童数から、約9割の児童が普通寺市立中学校に進学するとして試算
2. 学級数は、特別支援学級を含まず、1学級35人を基準として試算。
3. 令和11年度は、2022年度出生の児童が小学校1年生になる年度であり、Ⅲで述べる小学校との比較のため、令和11年度で試算を行った。

Ⅲ. 善通寺市に相応しい小学校の校数について

提言 小学校については、2校または3校とするのが望ましい

小学校の校数を議論する中で、焦点となったのは1校あたりの学校規模（人数、クラス数）である。国が示す学校の適正な規模は12～18学級※となっており、学級数と1学級あたりの人数を中心に議論が行われた。

※学校教育法施行規則 第41条、第79条に規定

その結果、2校案と3校案が残り、双方ともにメリット、デメリットがあることから、本委員会としては、両案を併記して提言することとなった。

以下、それぞれのメリット、デメリットを述べる。

(1) 2校案

①メリット

- ・1学年が1学級編成となる可能性が将来的にも低く、3校案に比して社会性の醸成を目的としたクラス替えが可能となる。
- ・現在の中学校が2校区なので、市民に受け入れられやすい。

②デメリット

- ・学級数が、当面の間、国の示す適正な規模（12～18学級※）を上回る。
※学校教育法施行規則 第41条、第79条に規定
- ・児童数が多いことにより、登下校時のチェック体制が煩雑になる懸念がある。

(2) 3校案

①メリット

- ・学級数が、当面の間、国の示す適正な規模になる。
- ・通学支援が必要となる児童が少なくなる。
- ・地域の学校としての役割が2校より保てる。
- ・教員の目が届きやすくなり、児童間トラブルへの対応等、職員の負担も少なくなる。

②デメリット

- ・学校によって、児童数に2校案より偏りがでる可能性がある。
- ・偏りがでた場合など、将来的に1学年が1学級編成となる可能性があり、その場合、社会性の醸成を目的としたクラス替えができなくなる。また、少人数校が出来てしまう可能性もある。

以上が、2校案、3校案それぞれのメリット、デメリットになる。

なお、両案ともスクールバスによる通学支援が必要になると考える。

市当局には、今後の様々な状況によって適切にご判断していただきたい。

(参考)

児童数、学級数の試算（令和11年度）

(単位：人)

学 年 (生年月日)		1年生 R4.4.2～ R5.4.1生	2年生 R3.4.2～ R4.4.1生	3年生 R2.4.2～ R3.4.1生	4年生 H31.4.2～ R2.4.1生	5年生 H30.4.2～ H31.4.1生	6年生 H29.4.2～ H30.4.1生	合計
児童数		195	202	208	222	229	217	1,273
2 校 案	1校あたりの 児童数	98	101	104	111	115	109	637
	1校あたりの 学級数	3	3	3	4	4	4	21
3 校 案	1校あたりの 児童数	65	67	69	74	76	72	424
	1校あたりの 学級数	2	2	2	3	3	3	15

- (注) 1. 令和5年4月1日現在の0～5歳の児童数で、全員がそのまま善通寺市立小学校に進学するとして試算
2. 2校案、3校案ともに、各校の児童数は同数とし、学級数は、特別支援学級を含まず、1学級35人を基準として試算。
3. 令和11年度は、2022年度出生の児童が小学校1年生になる年度である。

IV. 善通寺市に相応しい幼稚園の園数について

提言 幼稚園については、こども園を2園とするのが望ましい
ただし、小学校が3校となる場合、3園とすることも考慮する。

幼稚園について検討するにあたり、こども園※についても考える必要があるということで、本委員会では、綾川町の町立滝宮こども園の視察を行い、こども園についての認識を深めた。

また、市内には私立幼稚園が1園、市立保育所が2園、私立保育所が2園、私立こども園が2園存在している。検討にあたっては、民間施設の協力は不可欠であり、市立幼稚園については、市立保育所を含めて検討をし、こども園を2園とする形が望ましいという結論に至った。

ただし、これまで市立小学校と市立幼稚園については密接な関係にあり、各小学校に幼稚園が近い距離に設置されており、同じ幼稚園の園児が同じ小学校に進学することが多く、運動会等の行事を幼小合同で行ってきた地域もある。もし、今後、先に示した小学校の校数について3校案が採用される場合は、こども園から小学校へのスムーズな接続などを考え、3園とすることも考慮する必要があると考える。

※ こども園とは、教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設であり、一定の機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができ、いわゆる認定こども園となる。認定こども園には、幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能をあわせ持ち、認定こども園としての機能を果たす幼保連携型こども園のほか、認可幼稚園が、保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たす幼稚園型こども園や認可保育所が、幼稚園的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たす保育所型こども園などがある。

(参考)

令和5年度 市内の幼稚園、保育所、認定こども園の状況

(単位：人)

区分	園名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	
市立幼稚園	中央				6	17	16	39	
	東部				21	22	23	66	
	西部				11	10	12	33	
	南部				9	14	15	38	
	竜川				45	48	48	141	
	与北				1	3	3	7	
	筆岡				17	12	21	50	
	吉原				11	13	11	35	
	市立幼稚園計				121	139	149	409	
市立保育所	善通寺	3	15	18	8	8	2	54	
	竜川	11	26	30	0	0	0	67	
	市立保育所計	14	41	48	8	8	2	121	
市立施設計		14	41	48	129	147	151	530	
私立幼稚園	聖母				20	23	12	55	
私立保育所	吉原	7	22	26	21	9	13	98	
	南部	9	18	15	6	4	0	52	
	私立保育所計	16	40	41	27	13	13	150	
私立幼保連携認定こども園	のぞみ	2・3号	5	25	28	24	26	23	131
		1号				4	3	1	8
	カナン	2・3号	3	23	25	22	19	18	110
		1号				1	0	0	1
	私立幼保連携認定こども園計	2・3号	8	48	53	46	45	41	241
		1号				5	3	1	9
	合計		8	48	53	51	48	42	250
私立施設計		24	88	94	98	84	67	455	
合計		38	129	142	227	231	218	985	

- (注) 1. 令和5年5月1日現在で、市内の幼稚園、保育所、認定こども園に通う児童の状況
2. 認定こども園の「2・3号」とは、「2号認定」及び「3号認定」のことで、保護者に就労や妊娠、出産などの事由がある場合に適用されるもので、預けられる時間は標準時間で11時間以内、短時間で8時間以内となる。「2号認定」は満3歳～5歳児が対象、「3号認定」は満0～2歳児が対象。
3. 認定こども園の「1号」とは、「1号認定」のことで、保護者が就労等の保育に必要な事由に相当しない場合に適用され、対象は満3歳～5歳。教育標準時間が適用され、預けられる時間は2・3号より短い。

おわりに

善通寺市は、これまで子育て・教育に力を入れてきており、人口減少率は県内でも比較的緩やかであるとされている。

しかしながら、現状、そして将来の本市の子ども的人数などを踏まえると、このように大幅な減少となる校数・園数を提言することとなった。

先に述べたように、地域性などは一旦置いておき、本市に相応しい校数・園数ということで検討を行ったが、議論を取りまとめることは容易ではなく、特に小学校については1案に絞ることができず、2校案と3校案の両案を併記する形となった。

今回の検討委員会での議論を通して、学校の役割が子どもの教育の場というだけでなく、地域の象徴であり財産であるということを再認識させられた。

今後、さらに市民の意見を聞きながら、具体的に学校、幼稚園をどのように再編していくのかを検討、計画していくことになると思うが、そこには様々な困難が待ち受けていることは想像に難くない。

市当局には、重ねてになるが、本市の将来を支える子ども達にとって望ましい教育環境の整備を強くお願いするところである。